

聖一國師について (橋所東福寺—臨濟禪寺の開山となつた人)

(A) 靜因果出身 幼名龍千丸

(B) 四才の時久能寺(久能山) (臨濟禪寺) に入り佛門を志す。

宋朝和尚より円爾（臨濟）と云う名をもつ。↓後では宋に渡り研究する志を掲げ

(C) 博多の貿易商謝國明をたよる (中国語の勉強と渡宋の世話をたのむ)

(D) 34才で宋に渡り杭州の万寿寺の無準師範の教を受けける

(E) 27年の研究で禪の修業にたぎ完了の印可状を受けける

(F) 更に57年勉強—師の無準師範より「師の法嗣（法嗣）に在る印可状を受けける

外に寺の建築もお茶の作法 中国の進んだ文化の研究もする

(G) 仁治二年七月帰国、博多に留まり北九州を巡錫して寺を建て開山となる

東福寺 万寿寺 (佐賀大和) 承天寺 (博多) 等

橋の東福寺 (仁治二年十月以前) 武雄広福寺 (仁治三年)

(B) 四才の学識や評判を聞いた京都の藤原道家(南白)は円爾の上京を

懇願する (寺院の建築(東福寺)と臨濟禪の話をもききたい)

(C) 寛元元年(一一三三) 円爾上洛 月輪殿にて禅法を説く (聖一和尚の名を給う)

(D) 文永五年(一一三六) 東福寺落慶 臨濟宗東福寺派総本山

(E) 長元元年(一一三二) 花園天皇より國師号を賜ふ (聖一國師と呼ぶ)

(F) 弘安三年十月十七日(一一八〇) 入寂 満七十八才